

専門学校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部

最優秀賞

「地域社会と建設業のつながり」

東海工業専門学校金山校 土木工学科1年
水本 悠月

私の生まれ育った地域は、人口約三千人の過疎地域です。私は高校時代、地域活性化について勉強をしてきました。その中で私自身が将来仕事をしながら地域活性化に携わるためにはどうすれば良いかと考えた際に、両親が地元で営んでいる土木会社を継ぐことが一番良いと考えました。私の生まれ育った地域では土木業はなくてはならない存在です。昨年、市街地につながる国道152号線が大規模な土砂災害により半年ほど通行止めになり、現在も工事が続いています。このような土砂災害が起きた際に早急に対応ができる土木会社が地域に存在することが重要だと考えます。

ただ、建設業界は年々、働き手が減ってきています。他の産業に比べ、五十五歳以上の働き手は多く、二十九歳以下の働き手は少なくなっています。実際私の生まれ育った地域でも、建設会社は多くありますが、それらのどの会社も二十九歳以下の働き手よりも五十五歳以上の働き手のほうが格段に多いです。私の両親が営んでいる土木会社でもすでに五十代になる私の父が一番若い働き手となっています。このようなことは私の生まれ育った地域以外でもよくあることだと思います。今後、何の対策も取らずにこのまま人手不足が続けば、地域で起こった土砂災害に早急に対応ができなくなり地域住民が困るどころか、地域にある会社は畳まれ、より一層地域における就職先もなくなり人口減少は進んでいくことも容易に考えられます。

そこで今後は、地域と建設業界が協力をして雇用促進を行っていくことが大事だと考えます。先ほど申し上げた通りそれぞれの地域にとって建設業はなくてはならない仕事だと思います。また、働き手にも若者が不足しているこの状況から、地域にある各学校で、それぞれの年代に合わせた建設業の魅力をアピールすることが大事だと考えます。例えば、小学生などの生徒には実際に土や砂に触れてもらったり段ボールハウスを作ってもらったりするなど、土木業の基礎について触れてもらい建設業が楽しいと感じてもらうことがよいと考えます。また、中学生にはそれぞれの地域で行われている工事現場の見学や測量体験などの発展した体験活動を通じてより

建設業に近い体験をしてもらうことがよいと考えます。また、高校生には就職や進学に向け建設業界の現状や建設業の将来性を説明する企業説明会や、専門学校による説明会を行うことで就職や進学に向け、より詳しく建設業について知ってもらうことがよいと考えます。

このような活動を通じて地域で営んでいる建設会社に働き手が増えれば、会社にとっても地域にとっても良いことだと考えます。会社にとっては今後人材も継続的に獲得でき地域でより多くの仕事ができます。また、地域にとっては働き手が増え人口減少を緩やかにすることができ、地域活性化に向け様々な活動を行うことができます。このように建設業界と地域がより密接につながりを持つことで、地域活性化や建設従事者を増やすことができると考えます。

私にとって建設業は憧れの仕事でした。父や祖父が毎日大きなトラックやバックホウなどの建設機械を操縦しているのを見たり助手席に乗ってみたいと思っていました。また、父と一緒に地域に出かけた際には様々な方から「この前はありがとう」という言葉を多く聞くことができました。その姿を見て私も大好きな地元で、祖父や父のように地域の方から頼られる土木従事者になりたいと考えています。

今後は専門学校で土木の基礎からしっかりと学び知識や技術を身につけながら、将来地域活性化に携わるために地元の先輩方と連絡を取りながら勉強をして地元に戻った際には土木業と地域活性化のどちらでも活躍ができる人材になりたいです。